

2016 FORMULA 4 CHAMPIONSHIP Paddock News

国内唯一、開発競争のあるミドルフォーミュラF4の魅力を探る **Vol.1**

WEST SERIES ROUND 1 4月23日
岡山国際サーキット ▶くもり/ドライ ▶15周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	11		大湯都史樹	TANZEN Rn-s JSS MYST	KK-ZS	23'34"058
2	77		久保宣夫	オートセレクトジャパンMYST制動屋	KK-ZS	+20"943
3	27	H1	八巻 渉	モレキュールアキランドイグル	WEST006	+22"686
4	95	H2	佐藤健介	KRS赤レンジャー-ANDARE-976	WEST976	+52"129
5	7	H3	山岸洋之	イーグルスポーツ☆MTN☆056	WEST056	+72"104
23	H		高柳文哉	ウエスト006	WEST006	-5Laps
51	H		藤井敬士	フジタ薬局☆モーターテクニカ☆FRD	FRD956	-9Laps

16年スカラシップドライバー 大湯都史樹が感じるたしかな手ごたえ

今季、JSSからマシン提供、F4協会からタイヤ供給を受けられるスカラシップを獲得しミストからF4に参戦するのが大湯都史樹だ。西日本開幕ラウンド、東日本開幕ラウンドを制し、チャンピオン獲得に向け順調な滑り出しをみせている。その大湯にも、ミストの印象を聞いてみよう。「同郷（北海道）の平中克行選手の紹介で昨年はスーパーFJを戦い、今年からJAF-F4に挑戦しています。JAF-F4は速度域が高く、最初に鈴鹿を走ったときは1、2コーナーのスピードに驚きましたが、シーケンシャル・トランスミッションはギヤチェンジが得意な自分には乗りやすいと感じました。先日の岡山（西日本第2戦）で一段階レベルが高い走り方に挑戦したのですが、勝つことができました。



今季スカラシップを獲得しミストからF4に参戦している大湯。9歳からカートを始め、全日本ジュニアカート選手権や鈴鹿選手権シリーズ等でシリーズチャンピオンを獲得。昨年、四輪デビューを果たした。

悩みもありますが、この先の方向性が見えた気がしています。まだ課題だらけですが、ミストのアドバイザーやメカニックがロガーを基にアドバイスしてくれるので、手ごたえは感じています」

WEST SERIES ROUND 2 4月24日
岡山国際サーキット ▶晴れ/ドライ ▶14周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	11		大湯都史樹	TANZEN Rn-s JSS MYST	KK-ZS	21'52"251
2	27	H1	八巻 渉	モレキュールアキランドイグル	WEST006	+30"988
3	77		久保宣夫	オートセレクトジャパンMYST制動屋	KK-ZS	+32"507
4	7	H2	山岸洋之	イーグルスポーツ☆MTN☆056	WEST056	+59"294
5	95	H3	佐藤健介	KRS赤レンジャー-ANDARE-976	WEST976	+71"201
6	23	H4	高柳文哉	ウエスト006	WEST006	+100"338
51	H		藤井敬士	フジタ薬局☆モーターテクニカ☆FRD	FRD956	-3Laps

EAST SERIES ROUND 1 5月14日
スポーツランドSUGO ▶晴れ/ドライ ▶15周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	11		大湯都史樹	TANZEN Rn-s ミスト	KK-ZS	20'47"458
2	73	H1	里見乃垂	チームNATS-エクス006	WEST006	+27"400
3	72		金井亮忠	チームNATS-正義 001	NATS-001	+31"575
4	14		金澤力也	ZAP M-S-Y F108	F108	+40"690
5	19	H2	ハンマー伊澤	Sウインズ☆ハンマーパリュウ	WEST056	+43"574
6	17		小倉可光	チームNATS-OAC 090	MC090	+52"732
7	34		三浦 勝	CMS090	MC090	+58"704
8	61	H3	上野山晶太	がんばろう東北JAF-F4	WEST056	+63"536
9	33	H4	武居義隆	CMSNUTEC56	WEST056	+69"343
10	27		SYUJI	B-MAX-RK01-TODA	RK-01	+79"366
11	3		今中大介	B-MAX-RK01-TODA	RK-01	-1Lap
12	70		岡本武之	ビスキューレーシングMC	MC090	-1Lap



西日本シリーズは4月23、24日に開幕。ドライコンディションのもと2戦が行なわれ、大湯が連勝をものにした。東日本シリーズは5月14、15日に開幕戦が行なわれ、全12台が参加した。第1戦は27秒もの大差をつけてミストの大湯が優勝を決めたが、第2戦は日本自動車学校NATSの72号車金井、73号車里見が先行する場面もあり、約4秒の僅差で大湯が逃げ切った。

EAST SERIES ROUND 2 5月15日
スポーツランドSUGO ▶晴れ/ドライ ▶15周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	11		大湯都史樹	TANZEN Rn-s ミスト	KK-ZS	20'43"807
2	72		金井亮忠	チームNATS-正義 001	NATS-001	+3"951
3	73	H1	里見乃垂	チームNATS-エクス006	WEST006	+29"298
4	14		金澤力也	ZAP M-S-Y F108	F108	+34"418
5	19	H2	ハンマー伊澤	Sウインズ☆ハンマーパリュウ	WEST056	+38"184
6	17		小倉可光	チームNATS-OAC 090	MC090	+53"515
7	34		三浦 勝	CMS090	MC090	+69"720
8	3		今中大介	B-MAX-RK01-TODA	RK-01	+85"429
9	27		SYUJI	B-MAX-RK01-TODA	RK-01	+86"574
10	33	H3	武居義隆	CMSNUTEC56	WEST056	+102"147
11	70		岡本武之	ビスキューレーシングMC	MC090	-1Lap

15年F4チャンピオン牧野任祐が語る 常勝チーム“MYST”のレース哲学 才能を伸ばす育成論

2015年に牧野任祐を擁しF4チャンピオンに輝いたチーム・ミスト 勢いそのままに、今季も東・西日本開幕ラウンドで連戦連勝を飾っているチーム・ミストとはどのようなチームなのか、牧野の言葉から探っていく

Text: 大串 信 (Makoto Ogushi)
Photo: 佐々木純也 (Junya Sasaki) / 米重有三 (Yuzo Yoneshige)

「ミスト(MYST)? スパルタです」と牧野任祐は即座に答えた。牧野は昨年、自動車工房ミストの実戦部隊であるR.N. SportsからJAF・F4東日本シリーズ、西日本シリーズに参戦、両シリーズでチャンピオンとなり、シーズン締めくくりとなる日本一決定戦でも優勝してJAF・F4を完全制圧した。さらにFIA・F4シリーズでも激しいチャンピオン争い

「14年を迎える段階で、自身の事情によりレース活動を打ち切るつもりでした。しかしレーシングカート時代から牧野を眺め、その才能を評価していたミストの庄司富士夫代表が便宜をはかり14年のスーパーFJシリーズに参戦できることになった。「うれしかったけれど、正直もうレースを辞めようと思っていたので複雑な心境でした」

牧野はこのチャンスを逃がすことなく14年に岡山でシリーズチャンピオンとなり、日本一決定戦でも優勝して、15年JAF・F4 4進出のスカラシップを獲得した。牧野は「シリーズチャンピオンは、MUSTだった」と言う。「JAF・F4はスーパーFJに比べて(車体が)大きくなりますしダウンフォースも増えるので走らせ方も違ってきます。もちろん自分で考えもしましたが、チームにはいろいろ教えてもらい、支えてもらいました」

ミストのサポートには特徴があると牧野は語る。「ロガーデータから考えるのはこのチームもやることですが、代表の庄司さんは外から走りを見てくれるんです。他のチームと違うところはそこです。どこかのコーナーからずっと走りを見ていて、ああときの動きはこうだったから、クルマはこう変えようか」と一緒に考えてくれるんです。ドライバーとしては、外から見てもらわないと分からない部分も多いのでとてもうれしかったです」

こうしたクルマ作りが影響してか、ミストのマシンはチャレンジングだったという。「尖っているところがありますね。セッティングが決まったらメチャメチャ速くなりますが、決まるまでは結構大変。そのぶんやりがいがあるって学べるクルマだと感じました。決まったときの気持ちよさは、いまでも覚えています。個性のあるチームですが、ハマるドライバーにとっては、才能を伸ばせる場所だと僕は思います。牧野はその才能をミストで開花させたのである」